

## フランス 3月の地方選挙は実施予定

---



3月15日（日）に予定されているフランス地方選挙の第一回戦は、新型コロナウイルス感染者の急増で延期が懸念されていましたが、本日3月10日の時点では、よほどの状況悪化がない限り予定通り実施されます。

### コロナウイルス対策に、大量のボールペン

---

今回の地方選挙は、フランスでの新型コロナウイルス感染者が急増する中で行われるという異常な事態となり、各地方自治体により投票所での感染防止対策が取られます。

投票所の入り口には消毒ジェルが置かれ、入場者同士が十分な間隔を置いて並ぶよう床に白線が引かれます。

通常であれば投票記載台にはボールペンが1本あるだけですが、例えばフランスで6番目に人口が多いナント市（Nantes、人口約30万人）は、不特定多数の使用による間接的な接触を防ぐため2万本購入したと発表しています。

また、一度に投票所内に入場する有権者の数も制限されます。

感染者が特に多い東フランスのオー＝ラン県（Haut-Rhin）内64の投票所では電子投票機が用意され、機械は利用毎に消毒されます。さらに「投票所に行く」という恐怖感を払拭するため、希望者にはサージカルグローブやマスクも提供されるといった対策を発表しています。

また、政府は移動が困難な高齢者に代理投票を奨励しており、今週は警察官が老人ホームを巡回して代理投票の登録を行うなど、感染恐怖による投票率の低下を抑えようと躍起になっています。

## 有権者の28%、《感染を恐れて》投票に行かない

世論調査会社イフォップ（Ifop）社の調査によると、回答者の28%は《新型コロナウイルスの感染を恐れて》「投票に行かない」と答えています。しかしながら、この28%のうちどれだけの人が《そもそも投票棄権者》なのかはわかりません。

ちなみに、2014年の地方選挙における《棄権》は36%にも上りました。

とはいえ今回の騒動で、とりわけ大都市での投票率は大幅に下がる可能性があります。

パリの有権者の37%は「投票に行かない」と回答しています。そのため、政治学者の間では感染を恐れて投票を棄権する「高齢者の支持層が厚い政党に不利になる」との予想が広がっています。

しかしながら、調査結果によると18～24歳までの若い有権者のうち40%が「感染が怖いから棄権する」と回答しています。逆に同じ理由で「棄権する」と答えた65歳以上の有権者はわずか23%でした。

執筆：マダム・カトウ

オンラインフランス語学校

# ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

